

横浜市の文化観光行政(9月29日、決算委員会審査)

三渓園完成100周年に思う

重要文化財が保存されている本牧の三渓 園は、横浜に残された「和」の観光資源です。 先日、修理が完了した臨春閣は、『東の桂離 宮』と称される建物で山を借景に、池に面し



て並んだ美しい佇まいは、国内外の観光客を魅了しています。

横浜市の中期計画(2022~2025)では、令和7年度の観光消費額を4,026億円と、コロナ前のピークを264億円上回る目標となっています。文化観光局では、三渓園の建物内での食事や宿泊ができるように、現在、国へ働きかけています。今後は、多くの観光客や市民の方々が、三渓園でさらに楽しめるよう、工夫することで魅力向上を図っていきます。

横浜芸術アクション事業

—Dance Dance@YOKOHAMA2021—

4回目を数えた「DDD横浜」事業について審査しました。第1回(2012

年)から連続して、「DDD横浜」のメインプログラムである東京バレエ団による『横浜ベイサイドバレエ』は、真夏の夜空、吹き抜ける海風、波に揺らめく港夜景といった、横浜ならではの風景を背にした特設野外ステージで圧巻のパフォーマンスを披露されました。

横浜芸術アクション事業は、都市ブランディングの象徴であり、文化芸術都市横浜を発信してきました。これからも「選ばれる都市」として、文化芸術の火を絶やさないようしたいと思います。



伝統・文化は、都市の「心」のビタミシ

今年7月に横浜市内(港南区)在住の能楽師、大坪喜美雄氏が人間国宝に認定されました。人間国宝は、全国で112名、横浜市内では、大坪氏1人のみです。京都市や金沢市のような古都は、歴史が培った伝統工芸が多々あり、外国の方々からも、その都市がもつ歴史と文化への憧れで訪れる観光客が増えています。横浜が、古い伝統文化を新しい文化に変容させるダイナミズムのある街と評価されるよう、伝統・文化を継承するアーチスト、クリエイターの育成に取り組むよう要望しました。

日中韓都市間文化交流

東アジアにある日本・中国・韓国が、毎年文化芸術イベントを集中的に実施する都市を選ぶ事業で、2014年に、横浜市は初代開催都市として選定されました。中国は泉州市、韓国は、光州広域市。3都市間で毎年、市民交流をすすめており、コロナ禍の2021年は、日中韓の青少年のブレイクダンサーがオンライン交流や、日中韓文化都市声楽オーデションが行われました。

、山本たかしのプロフィール 🥕

1954年、京都市中京区新町御池に、二人兄弟(双子)の次男として生まれる。龍池小、城冀中、堀川高校、京都大学(法学部)と、京都の真ん中で過ごす。大学卒業後は、大阪の松下電器に入社し、配属は、横浜市港北区にある松下通信工業。1981年から労働組合専従役員になり、「松下労働学校」の講師を経験。1994年から横浜地域連合(組合員数19万人)議長として、地域労働運動の先頭に。(当時の横浜市長は、高秀秀信氏)1999年、「ワールドカップ市民の会」副会長として、「日韓ワールドカップ2002」を迎える。

2008年から2年間、菅 義偉衆議院議員の秘書となり、政治を学ぶ。2011年から横浜市会議員(3期)磯子区西町在住。横浜に住んで45年、根っからの横浜大好き人間。好きな言葉"忠恕(誠実とおもいやり)""地域力・いそご元気"